

認定NPO法人フローレンス

アニュアルレポート 2015

ANNUAL REPORT 2015



新しいあたりまえを、すべての親子に。

Florence
認定NPO法人フローレンス

叶わなかった認可保育園への道をヘレンが橋渡ししてくれた

2015年9月、開園から1年を迎えた「障害児保育園ヘレン」に、桃の香りのハンドソープを届けてくれたのは、井門由美子さん。「ヘレンに預けられたからできた香りです。」そう言って笑う井門さんは調香師として香料の会社で働きながら、3歳になる「るいくん」を育てるお母さんです。ヘレンでの集団保育の実績を積み、この春から地元の保育園へ通いだしたるいくん。転園前に井門さんがヘレンへの想いを語ってくれました。

記憶のない生後1週間

るいの病気は妊娠5ヶ月の時に判明しました。エコーで腎臓が腫れていて、恐らく「多発性嚢胞腎」という難病だろうと言われていました。言われていた通り、出産後は本当に壮絶でした。生きるために必要な「自分で呼吸ができるかどうか」「おしっこが出るかどうか」といったことを一つ一つクリアしては

次の心配が出てくる日々。明日も生きていてくれるのかがわからない状態が1週間続きました。このときのことは壮絶過ぎたのかあまり記憶に残っていないんです。

職場復帰に立ちはだかる壁

仕事には復帰したかったけれど、るいには経管栄養のチューブもついていたし、認可保育園には入園を断られてしまっただけでなく、会社に事情を話して育休を1歳半まで延長しました。そしたら、ちょうど育休が切れるタイミングでヘレンの開園を母が見つ

けてきたんですね。狭いところにあるヘレンまでは自宅からも会社からも遠く、一般の保育園に入りたいという気持ちも強かったのですが、最初は「ダメもとで話だけ聞いてみよう」と思っていました。仕事に戻りたいと思いながらも預け先が見つからない状況が続いていたの

病児保育を使いながらようやく暮らしも安定するように

ひとり親のご家庭に病児保育を安価で提供するフローレンスの「ひとり親支援」。皆さまの寄付を原資に、現在255名のお子さんをサポートしています。一人で育児・仕事・家事を抱えるため、就労継続や経済状況がいっそう厳しいひとり親家庭。5歳の息子さんがいて、フローレンスの「ひとり親支援プラン」を利用するお母さんにフローレンスの支援が果たしている役割を聞きました。

突然の別居でひとり親に

私が離婚をしたのは息子が2歳のときです。突然夫が「別居したい」と言って出て行ったのがきっかけでした。当時私は専業主婦でしたし、離婚は考えられなかったのですが、その言葉に従うしかありませんでした。とにかく働かなくてはと思って相談に行った市役所で初めてフローレンスの病児保育を知りました。

その後、息子を実母の家に預けてどうにか仕事を探しましたが、就職活動は苦労の連続。「どうせ子どもの熱で休んでしょ」と門前払いされることも多く、数ヶ月かかってようやく近所のパートを見つけました。その頃には約束していた夫からの生活費もなくなり、生活が一変。周囲のすすめもあって、正式に離婚をして息子と二人の生活が始まりました。

子どもの体調不良で休めても収入が減る

パート先は理解もあり、子どもの体調不良のときは休ませてもらえたのですが、その分収入が減りました。苦しい生活の中、さらに住み続けていた夫名義のマンションも「出て行ってほしい」と言われて、引っ越すことに。東北の実家に帰ろうかとも悩みましたが、仕事のことを考えて今度は都内で就職活動することにしました。再び苦労をして見つけた仕事は、産休中の方の



Mission

親子の笑顔をさまたげる

で、もう戻れないかもとどこかで考えていたからかもしれませんが、でも、ヘレンの面談で子どものケアについての要望を伝えた時に、当たり前のように受け入れてくれて。経管栄養の子も預かってくれるんだな、それなら応募してみようと思ったんです。そこからはもう必死で、分刻みで登園から通勤までのスケジュールを計算しました。

「介護」が「育児」に変わった

ヘレンには、るいと境遇の似た子がたくさんいて先生もその子に合った対応をしてくれました。集団生活の中で動ける子からは動きを学び、しゃべれる子からはお話を学び、子どもって「見て真似て」育つんだなと。るいも歌を歌ったり、お絵かきしたり、子どもらしいしぐさがすこく増えました。これまで病気のことばかりに気を取られて、子どもらしいしぐさや表情に気

づけなかったんです。るいがヘレンに通ったことで「介護っぽい」ものだった私たちの子育てが、「育児」になりました。るいはこの春、ヘレンでの集団保育の実績を認めてもらい、認可保育園に転園しました。きっとまたたくさんのことを学んでくるんだろうなと思うとワクワクします。私たち親にとってもヘレンで過ごした1年半は大事な期間でした。障害児保育問題のゴールはヘレンのような保育園が増えることではなく、どこの保育園でもどんな子どもでも預かってもらえることだと思っています。でも、まずは障害児の母親も当たり前のようになれば、自治体の意識も変わっていくのではないかと。ヘレンはその橋渡しの役割を果たしてくれる存在になると信じています。

社会問題を解決する

皆さまのご支援で、
また一歩、課題解決が進みました

代替の短期派遣の仕事でした。有休もありましたが、子どもの体調不良であつという間に使いきってしまい、その後は無給で休んでいました。困っていたとき、フローレンスのことを思い出して調べてみたところ「ひとり親支援プラン」を見つけ、次の就職活動のためにも入会することになったんです。

ようやく生活が落ち着くように

実は初めて利用したときは、自宅での密室保育ということで抵抗がありました。でも今ではフローレンスを利用した日は子どもも楽しそうにしています。保育に来てくださるレスキュー隊員さんのお名前を覚えていたり、「次はいつ来るの?」なんて言っています。今年はインフルエンザも2回かかったのですが、フローレンスはとてもありがたかったです。費用面から施設型の病児保育も使って

いますが、やはり連れて行く負担や病気のうつし合いも気になり、限られた休みでやりくりする我が家にとってはリスクが高いです。過去には息子に無理をさせることもあったかもしれませんが、そんなとき息子は「こんな調子のわるいばくを置いていくの?」なんて言うので、フローレンスは子どもを残していく母の気持ちも助けてくれています。今まで自分の病気で仕事を休んだことはなく、多少我慢してでも出勤して、土日やお正月に実家に帰ったとき、糸が切れたように風邪をひいたりします。気を張っているんでしょうね。ようやくこの春から少し安定した仕事に就くことができました。やっと落ち着いて、来年の息子の小学校入学を迎えられると思います。まずは小学校入学前の時期を乗り切り、いつか私も寄付する側になれるように頑張っていきたいです。

2015年4月フローレンスは設立10年目の節目として、新しいビジョンを策定し、コーポレートロゴもリニューアルしました。私たちは、社会変革のイノベーター集団としてこれからも挑戦し続けます。

Vision

みんなで子どもたちを抱きしめ、
子育てとともに何でも挑戦でき、
いろんな家族の笑顔があふれる社会



病児保育問題／ひとり親家庭の貧困

共済型・訪問型の病児保育を日本で初めて開始。延べ保育実績は3万8千件を超えました。また、ひとり親のご家庭に向けて寄付を原資に安価で病児保育を提供する「ひとり親支援プラン」も実施しています。



赤ちゃんの虐待死問題

虐待死する子どもの半数以上は0歳児です。望まない妊娠など、虐待につながりやすいケースの妊娠相談にのり、どうしても育てられない場合には子どもを望む夫婦に赤ちゃんを託す「赤ちゃん縁組」(特別養子縁組)により子どもの命を救います。



障害児保育問題

障害の有無に関わらず誰もが保育を受けられ、その保護者が当たり前に「働く」ということを選択できる社会の実現を目指し、「医療的ケア(=経管栄養、たんの吸引、胃ろう等)」が必要な子や、障害が理由で保育園に入れない子を長時間・母子分離で毎日預かる「障害児保育園ヘレン」と「障害児訪問保育アニー」を運営しています。



私たちの
取り組む
社会問題



孤育て問題

子育てについて誰にも助けを求められない孤独な「孤育て」を解消するためのコミュニティ施設「グロースリンクかちどき」を運営しています。地域とコラボしたイベントや学び場の提供などで新たなコミュニティを生み出しています。



待機児童問題

都市部を中心にいまだ深刻な待機児童問題を解決するため、定員19名以下(0~2歳児)の小規模保育所「おうち保育園」を運営しています。都内のほか、継続的な復興支援として宮城県仙台市でも開園し、保護者の就労支援につながっています。

働き方革命事業

「子育てとともに何でも挑戦でき、いろんな家族の笑顔があふれる社会」というビジョンの実現のために、自らの組織もさまざまな取り組みを実践するとともに、社外にも発信しています。

みんなで社会変革事業(旧・経営企画室)

親子に関わる社会問題を解決するため、メディア出演や講演活動などを通じて、社会に幅広く社会問題を伝えていきます。また、事業で培った知見をもとに社会問題を生み出す構造を変えるための政策提言も行っています。

障害児保育問題

障害児保育園ヘレン1周年。 2016年度は複数園開園します

2014年9月に開園した「障害児保育園ヘレン」は開園1周年を迎えました。2016年4月には4名の園児がヘレンでの集団生活の実績をもとに、一般の保育園へ転園することができました。2016年7月には2園目となる「障害児保育園ヘレンすかも」が開園、2017年2月には世田谷区にも新園を開園予定のため、医療スタッフ、保育スタッフの採用・研修等を進めています。課題解決のスピードを加速するため、ヘレンでともに働きたい方、寄付でサポートいただく方を継続的に募集しています。



待機児童問題・被災地支援

小規模保育所が認可事業として制度化されました

フローレンスの小規模保育所「おうち保育園」は2015年4月に子ども・子育て支援新制度により市区町村の認可事業として制度化されました。2016年4月には仙台市に2園目となる「おうち保育園木町どおり」を含む3園の「おうち保育園」を新たに開園しました。

赤ちゃんの虐待死問題

赤ちゃん縁組事業を開始

2015年12月より開始したクラウドファンディングで1391名もの方にご支援いただき、活動を開始することができました。相談員を採用し、2016年2月には妊娠相談を開始、3月には「育ての親」希望者向け説明会を開始しました。望まない妊娠に悩む女性と赤ちゃんを助けるために、相談活動と併せて特別養子縁組の制度そのものの認知を社会に広げていきます。



障害児保育問題

「障害児訪問保育アニー」スタート！ エリア拡大中です

障害を理由に保育園に入ることができないお子さんを保育スタッフがマンツーマンでご自宅でお預かりする障害児訪問保育アニー。クラウドファンディングで資金提供を受けて2015年4月に事業をスタートすることができました。初年度は新宿区・豊島区で開始し、6名のお子もたちが利用開始しました。2016年度は全12区にエリアを広げ、計22名のお子さんをお預かりする予定です。



孤育で問題

地域とのコラボレーションが進んでいます

2015年度、コミュニティ施設「グロースリンクかちどき」では、地域の皆さんと一緒に食育イベントや医療相談会など地域との繋がりを感じてもらえる新たなコラボイベントを企画しました。2015年12月からは子どもの貧困対策として無料または格安で食事を提供する「子ども食堂」を始めました。

病児保育問題

フローレンスの病児保育をモデルにした 漫画「37.5℃の涙」がドラマ化されました

フローレンスがモデルになった漫画「37.5℃の涙」(小学館『Cheese!』連載中)が2015年7月からテレビドラマ化されました。フローレンスでは、ドラマに合わせて広報活動を行い、放映後は病児保育の入会申し込みが急増。同時に病児保育のスタッフ採用にも応募が増えました。「37.5℃の涙」のイラストは作者のご厚意により保育スタッフの採用パンフレットにも使用しています。



2015→2016 TOPICS

F L O R E N C E

2015年度(2015年4月~2016年3月)の
トピックスと2016年度の展開について
お知らせします。

ひとり親家庭の貧困

サポート隊員が 1000名を超えました

低収入のひとり親家庭に安価で病児保育を提供する「サポート隊員(寄付会員)制度」は2008年の開始から8年目を迎えました。2015年度は330名の新たなサポート隊員の方が加わってくださり、延べ隊員数は1000名を超えました。現在は255名のひとり親家庭のお子さんをサポートしています。毎年、クリスマスイブにサポート隊員がひとり親家庭の子どもたちにプレゼントを届ける「サンタプロジェクト」を今年度も実施し、14世帯のご家庭に夢を届けました。中には喜ぶお子さんを見て、涙するお母さんもいらっしゃり、サポート隊員の方々とひとり親家庭のつながりを感じることのできる一幕でした。



フローレンス

「マンスリーサポーター」を 新設しました

ミッション「親子の笑顔をさまたげる社会問題を解決する」を推進するため、活動内容を限定せずフローレンス全体を支援する「マンスリーサポーター」を2015年10月に新設しました。障害児を育てる家庭を支える障害児保育事業や、赤ちゃんを虐待死から救うための赤ちゃん縁組事業などの活動を通じて、困難な境遇にある子ども・親子が笑顔で暮らせる社会を目指します。また2016年3月に寄付会員の方々からのご要望を受けて、初めてのボランティアデーを実施。事業のご報告のほか、障害児訪問保育アニーで使用するおもちゃ作りなど、寄付会員同士の交流の場となりました。作成したおもちゃはさっそく障害児訪問保育アニーで活用されています。

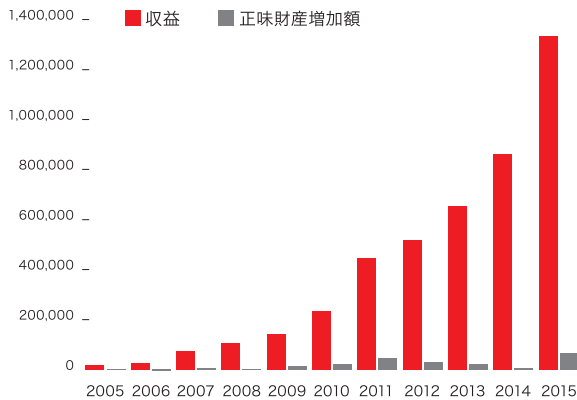


2015年度 会計のご報告

データの前提

NPOはあくまでも「社会問題の解決」を存在意義とし、利益は継続的な活動をしていくための手段です。責任を持って持続可能な運営を行うためには、企業と同様に財務的健全性を度外視することはできません。フローレンスは財務的健全性を保つため、新NPO会計基準に従って財務情報の開示を行い、経営の透明性を高めてまいります。

サービス開始(2005年度)からの収益／一般正味財産増加額



サービス開始(2005年度)からの収益／一般正味財産増加額

年度	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
収益	18,463	26,901	75,813	106,516	143,537	234,091	444,829	517,073	655,219	863,415	1,334,057
正味財産増加額	1,588	-1,846	5,015	2,885	12,988	22,746	47,234	31,537	21,934	3,869	65,521
昨年度対比	0%	146%	282%	140%	135%	163%	190%	116%	127%	132%	155%

事業部別収益の昨年度対比

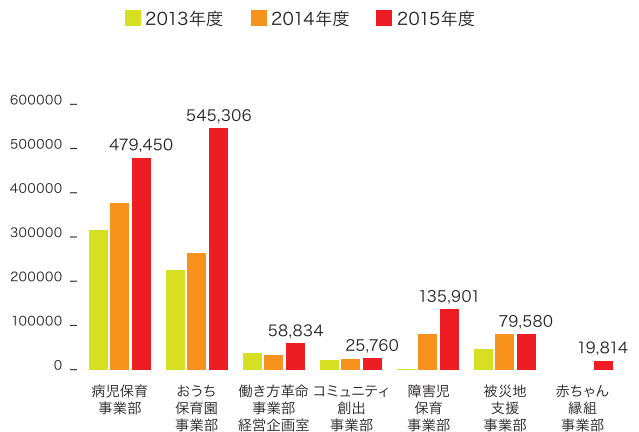
	病児保育事業部	おうち保育園事業部	働き方革命事業部 経営企画室	コミュニティ 創出事業部	障害児保育事業部	被災地支援事業部	赤ちゃん縁組事業部	全体
2013年度	315,975	224,686	37,093	22,220	30	47,271	—	647,275
2014年度	375,798	263,168	32,954	24,460	81,003	79,617	—	857,000
2015年度	479,450	545,306	58,834	25,760	135,901	79,580	19,814	1,344,646
昨年度対比	128%	207%	179%	105%	168%	100%	—	157%

単位: 千円

総括

2015年度は、収入が前年比55%増、一般正味財産増加額は65,521千円でした。主な要因は、病児保育事業が28%増であったことに加え、おうち保育園が、子ども・子育て支援新制度における小規模認可保育所に移行し、公的な補助が大幅に増加したこと、また、2016年度サービスインした、障害児訪問保育アニーや赤ちゃん縁組等の事業開始に伴う事業収入や寄付が加わったことです。

事業部別収益の昨年度対比



個別事業部のレビュー

病児保育事業部

昨年度に続き利用会員が増え昨年比28%成長でした。しかし、入会希望に対し、子どもレスキュー隊員の採用・育成が追い付かず、入会を制限する結果となってしまいました。必要とする全ての方に病児保育を届けるため、子どもレスキュー隊員の採用と育成が課題です。

経営企画室/働き方革命事業部

経営企画室は、新規事業立ち上げのための大口寄付の獲得、また、ユーザビリティや発信力向上のため、コーポレートサイトの改修に注力しました。働き方革命事業部は、働きがいのある会社(GPTW)ランキング5年連続ベストカンパニー入賞などの成果を出しています。

障害児保育事業部

2015年4月、障害児訪問保育アニーがサービスインし、障害児保育園ヘレンと合わせ、事業部全体収入は、前年比68%成長でした。収入には、アニー開始に先立ち実施したクラウドファンディングでのご寄付約1100万円が含まれます。2016年度は、ニーズの高いエリアへの開園3園と、アニーの展開エリア拡大のための準備を進めます。

赤ちゃん縁組事業部

2016年4月事業開始に向け、第二種社会福祉事業申請などの準備を進めました。事業立ち上げ資金として、約1900万円のご寄付をいただいています。2016年度は、育ての親向け説明会を行い登録者を増やすこと、そして実親相談数を増やし、特別養子縁組を希望する場合は、丁寧にマッチングを行うことに注力します。

おうち保育園事業部

おつか園が新規開園したこと、また、2015年4月施行の子ども・子育て支援新制度の小規模認可保育所に移行したことにより補助額が改善し、前年比207%でした。引き続き待機児童の多いエリアに迅速に開園するため、物件の調達及び保育士採用と育成に注力します。

コミュニティ創出事業部

ラーニングスペースである「マナViva!」の稼働が安定しており、前年比5%成長でした。地域住民主導のイベント開催など、コミュニティ創出施設としての活動が広がっています。また、さらなる地域コミュニティづくりのため、2015年12月、子ども食堂を開催しました。

被災地支援事業部

被災地の経済復興を牽引する仙台市で待機児童が増加している現状を解決すべく、仙台市青葉区に小規模認可保育所を開園しました。2016年度以降も、待機児童の状況をみながら、次年度に向けた新園開園準備を行います。

誰もが安心して子育てできる社会のために、皆さまのご支援をお待ちしております。

支援を受けたご家族より

病児保育ひとり親支援プランの利用会員の声

我が家は子どもが5ヶ月で妻と死別してから一人で子育てしています。子どもの体温が37度5分をすぎるとお迎えの電話がきて、仕事も途中で投げ出さざるを得ず大変な思いをしていました。微妙な体温の時には携帯が鳴らないことを祈っていましたが、ひとり親プランに入会したことで安心して仕事にも取り組みます。(1歳男児の父)

ひとり親になりやっと認可外の保育園に預けられても、毎日のように熱を出し、病児保育や民間のベビーシッター等に頼りながらなんとか生活していました。しかし保育料も高額で毎回は預けられず、結果仕事もクビになり途方に迷っていました。そんなときに、フローレンスのひとり親支援のことを知り、少し気持ちが軽くなりました。(1歳男児の母)



障害児保育園ヘレン
親御さんの声

我が子が医療的ケアを理由に既存の保育園の入園を断られ、社会から孤立したような気持ちでいたところにヘレンを知り、希望の光が見えた気がしました。おかげで就職することもでき、経済的にもとても助かっています。生活にメリハリができ、通院や在宅での看護も楽になった気がします。ヘレンで出会う同じ立場の親御さんたちと話せることも心の支えとなっています。



障害児訪問保育アニー
親御さんの声

仕事復帰が迫る中、子どもは経鼻チューブや酸素が必要な状態で仕事は諦めざるを得ないかなと思ったときにアニーを知りました。息子の存在を認めてくれていることは、同時に私の生き方を肯定してくれるように感じています。障害児の親は常に悩み、時に孤独です。障害のある子の親にも自由があるということを認めてもらえる幸せをもっと多くの親御さんに知ってもらいたいです。

フローレンスをご支援くださる方々の声



日本生命保険相互会社
執行役員 三笠 裕司様

「親子の笑顔を支える社会問題を解決する」という理念のもと、社会的な支えが遅れている「病児保育」への取り組みを中心に、問題解決に意欲的に取り組まれているフローレンスさんに共感し、支援させて頂くことを決めました。今後も「多くの笑顔が溢れる社会」を支える存在として、尚一層活動を拡大していけるよう、本社としてもサポートしていきたいと思っています。



サポート隊員
宗 文子様

笑っている子どもを見るとこっちも元気になる。落ち込んでいた時は元気になるし、元気なときはもっと元気になる。それはよその子どもでも自分の子どもでも同じです。お母さんが泣いていて子どもだけ笑っているのはちょっと悲しい。笑顔が一つでも増えたらいいなと思っています。今は子育てで身動きが取れない私でも寄付を通して気持ちのバトン渡しに参加できて嬉しいです。

1日50円~の寄付でフローレンスの活動を応援する「マンスリーサポーター」募集



ひとり親支援、障害児保育問題、赤ちゃんの虐待死問題など広くフローレンスの活動を応援する継続的なご寄付です。毎月、継続的にご支援いただけることで、活動を安定して運営することができます。皆さまのご協力をよろしくお願いします。

振込口座

三菱東京UFJ銀行 深川支店 普通預金1784434
特定非営利活動法人フローレンス
※口座名義は「トクヒフローレンス」と表示されます。

ゆうちょ銀行 口座記号番号 00100-7-773944
加入者名 NPO法人フローレンス

※詳細はフローレンスのホームページをご覧ください。 ※都度の寄付もありがたくお受けしております。

※フローレンスに対するご寄付は「寄付金控除(税額控除)」の対象となり、確定申告を行うことで寄付金額の最大50%が税金から控除されます。

※遺贈・相続財産の寄付についてもご相談ください。